

月例会「長期予報と大気大循環」の講演募集のお知らせ

表記月例会を下記のとおり開催いたします。講演を希望される方は下記の要領でご応募下さい。

記

日 時：1991年10月1日（火） 13:00～17:30
場 所：気象庁第1会議室（5F）
申込方法：講演題目，講演者氏名・所属，講演要旨

（400字以内）を添えて申し込んで下さい。

申 込 先：〒100 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁予報部長期予報課 露木 義
TEL. 03 (3212) 8341 (内線 330)
申込締切日：1991年7月20日（土）

講演企画委員会からのお願い（アンケート）

講演企画委員会では、来年度以降の大会のあり方に関して、次の様な方向で取り組んでいることを会員の皆様にお知らせし、これに対するご感想やご意見などをお聞かせ頂くことに致します。皆様のご協力をお願いします。

1. セッションの分類の見直しについて

セッションの分類については、おおよそ数年毎に分類項目についての小規模な改訂が行なわれてきましたが、今回の見直しは、既成の分類というワクから脱皮して、講演者の問題意識をなるべく率直に表現していただけるものに改めたいという観点から、既成の分類項目に申込むという方法をとらず、各自の講演にキーワードを付けて講演申込をして頂く方法を考えています。そして、そのキーワードに基づき講演企画委員会が適宜編集し、その都度適当なタイトルのセッションを組み立てる。

キーワードについては、現行の項目を当面の標準的なキーワードとして使用できるだろうし、また、斬新なキーワードの登場も期待します。キーワードは、1つだけあるいは複数にするかなど、会員のご意見・ご提案などを参考にして具体的なツメをしたい。

この方法では、実質的に現行のセッションとさほど違いない結果に落ち着く可能性がありますが、臨機応変に柔軟なセッションの組み立てが可能になるという積極的な意味があります。

2. 春季大会と秋季大会の性格について

これまでの春季大会と秋季大会は、開催地の差こそあれ、ほぼ同じ性格で行なわれて来ました。特に、研究発表においては全くと言ってよいほど同形式で行われて来ました。これはこれで、意義とメリットがあればこそ続

けられて来たものと考えられます。しかしながら、これをマンネリと見ることもできます。情報や研究交流の必要性が高まっている今、それに相応しい大会を考えるとすれば、自ずと、現行の大会を見直す時期でありましょ

う。それで、春季大会については幅広い情報交換・人的交流に重点をおき、一方、秋季大会は研究発表に重点をおく、と性格付ける。そして、その趣旨に沿った大会を企画する。例えば、春季大会では、学際的なシンポジウムや研究会を大会行事に組み入れる。また、秋季大会では、講演時間を現行よりも長く取れるようにするなどの案が考えられます。そのためには、春季および秋季大会の会場数を増加させて4会場にする必要性も出てきます。

3. 発表種別について

春季大会では、その趣旨に関連し、複数のシンポジウムや研究会を大会行事化する。そして、通常の個人研究発表は第1種講演やポスターあるいはそれら両者（の組合せ）で行う。ポスター発表が良い条件で行なわれるよう会場を工夫するなど配慮する。秋季大会では、例えば20分程度の講演ができる発表種別を設ける（あるいは、繁雑さを避けるために現行の第2種講演を20分化する）など、個人研究発表時間枠を拡充させる。第1種講演やポスター発表は従来通り行なう。

<このアンケートは春季大会において配布したものと同じです。皆様の忌憚のない御意見・御感想を、1991年8月7日までに、日本気象学会講演企画委員会へお寄せ下さい。宛先は、〒305 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会事務局（藤部文昭）>